

機械器具 58 整形用機械器具 手術用ドリルアタッチメント 37870001

テクニカ ドリルエクステンション

一般医療機器

【禁忌・禁止】

〈使用方法〉

- (1) 本品の取付けは、本品を確実に奥まで挿入し、固定されていることを確認すること。[器具の破損や脱落につながるおそれがある。]
- (2) 本品の加工・改造は行わないこと。[インプラント及び器具の破損や不適切な設置による術後成績不良が発生するおそれがある。]
- (3) 変形や破損した場合は使用しないこと。[インプラント及び器具の破損や不適切な設置による術後成績不良が発生するおそれがある。]
- ** (4) 先にドリルとの接続を行うこと。[器具の破損や脱落につながるおそれがある。]

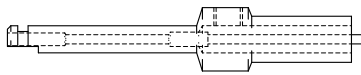
【形状・構造及び原理等】

材質はステンレス鋼である。

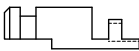
(1) 外部注水



(2) 内部注水



* (3) ショート



***【使用目的又は効果】**

本品は、植立孔の拡大及び仕上げの際に、隣接歯等によって全長が不足してしまったドリルに接続して使用する。

【使用方法等】

- (1) 外部注水
外部注水ドリルに本品を接続し、外科用ハンドピースに装着して使用する。
- (2) 内部注水
内部注水ドリルに本品を接続し、外科用ハンドピースに装着して使用する。
- ** (3) ショート
外部注水ドリルに本品を接続し、外科用ハンドピースに装着して使用する。本品をドリルに接続した際、大きくがたつく場合には使用せず廃棄すること。

【使用上の注意】

- (1) 本品は、歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
- (2) 製品の仕様は改良のため、お断りなく変更することがありますのでご了承ください。
- (3) 使用後は感染予防のため、ただちに滅菌消毒を行なうこと。

[使用方法に関連する使用上の注意]

- ** (1) 購入時は未滅菌のため、使用前に必ず洗浄・滅菌を行なうこと。(オートクレーブ可 121℃で20分間)
次回からの使用時にも同様に行なうこと。
- (2) 使用するまで常に滅菌後の汚染に注意し、手指や未滅菌の器具などで直接触れないこと。
- (3) ハンドピースへの取り付けは、脱落や破損につながらないように、確実に奥まで挿入し、固定されていることを確認すること。
- * (4) 本品は使用前にドリル及びハンドピースに装着し、患者の口腔外にて回転させ、注水量、芯ブレなどに支障のないことを

確認すること。使用に適さない場合には、新しいものと交換すること。

- (5) 錆や変色のおそれがあるため、長時間、生理食塩水に浸漬しないこと。
 - (6) 本品を使用中に切削性の低下や、汚染の恐れがある場合には、すぐに使用を中止し、新しいものと交換すること。
 - (7) 止めねじを締め付けの際は、ねじを破損するおそれがあるため、締めすぎないように注意すること。
 - (8) 小さな部品があるため、誤飲等には充分注意すること。
- *《ショートの注意事項》
- (1) 本品は、ストレートドリル等の真直ぐ穿孔させるドリル専用を使用すること。(トレフィンバーや、傾けて使用するドリルへの接続は、破損の原因となるため行わないこと)
 - ** (2) 本品をドリルに接続した際、大きくがたつく場合には使用せず廃棄すること。
 - (3) 必要以上の負荷は破損の原因となるため、順次拡大穿孔すること。(急激な径の拡大は行わないこと)
 - (4) 本品を使用中にハンドピースが高温になった場合は、使用を中止すること
 - (5) 使用中に、接続したドリルが回転しない、又はスムーズに切削できない等の不具合が生じた場合は、本品、又は接続したドリルに異常が発生した可能性があるため、直ちに使用を中止し、新しいものと交換すること。
 - (6) 本品は外部注水ドリル専用器具のため、内部注水ドリルを装着して使用しないこと。
 - (7) 接続が可能であっても、ドライバーやタップ等、高トルクが想定される製品に装着して使用しないこと。
 - (8) 本品を単体でハンドピース内へ挿入しない事。

【保管方法及び有効期間等】

- (1) 錆びる恐れがあるため水分・血液などが付着したまま保管しないこと。
- (2) 本品は汚染及び錆を防ぐ為、湿度が低く、清潔な場所に保管すること。

【保守・点検に係る事項】

- (1) 消毒用薬液、洗浄剤の濃度・浸せき時間・温度など使用方法は、各メーカーの指示に従い正しく使用すること。消毒用薬液としては次のものを推奨する。
グルタラール製剤(ハイドリッドなど)
グルコン酸クロルヘキシジン(ヒピテンなど)
界面活性剤系薬液(塩化ベンゼトニウム液、塩化ベンザルコニウム液、両性界面活性剤などを含む薬液)は使用不可だが、これらの薬剤を含んでいても、防錆効果を謳っているものは使用可能。但し、一部の防錆効果のある両性界面活性剤に長時間又は高温下で浸漬した場合、変色を起こすおそれがあるので注意すること。
- (2) 次の成分を含む消毒用薬液は、錆への影響が高いため使用しないこと。
塩素系薬液(次亜塩素酸ナトリウムなど)、過酸化水素系薬液(オキシドールなど)、強酸性水、及び防錆効果のない界面活性剤系薬液(塩化ベンゼトニウム液、塩化ベンザルコニウム液、両性界面活性剤など)。
- (3) 乾熱滅菌は、高温になり劣化の原因になるので使用しないこと。
- (4) オートクレーブ滅菌の場合、機種・条件によっては滅菌バッグが湿った状態で乾燥工程が終了することがあり、その際、滅菌バッグと製品とが直接接していると錆が発生する原因となるので、滅菌ケース、必要に応じてパースタンドなどを用いて製品と滅菌バッグとが直接接触しないようにして滅菌すること。
- (5) 錆びたドリルは、汚染を引き起こす可能性があるため、錆びていないドリルと一緒に滅菌しないこと。

取扱説明書等を必ずご参照ください。

- (6) 滅菌後は錆がないか点検し、錆が認められた場合には、新しいものと交換すること。
- (7) 錆びるおそれがあるため次のことについて留意すること。
 - ・ 血液・骨が凝固付着したまま乾燥させないこと。
 - ・ 最終洗浄は精製水を使用すること。
 - ・ 湿度が高くて自然乾燥に時間を要する場合には、ドライヤーなどで強制的に乾燥させること。
 - ・ 汚れ、水分、洗浄剤などが付着したまま滅菌しないこと。
 - ・ オートクレーブ滅菌の場合、精製水を用い、水道水は使用しないこと。
- (8) 本製品使用後は、すぐに消毒用薬液（上記(1)、(2)参照）又は消毒効果及び防錆効果のある洗浄剤に浸漬し、その後、超音波洗浄器、ブラシなどを用いて洗浄し、内部注水部などの付着物を完全に除去すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

株式会社デンテック

〒174-0053 東京都板橋区清水町 53-5

TEL: 03-3964-2011

FAX: 03-3962-5624